

昭和59年度沖縄周辺重要水産資源調査

喜屋武 俊彦

1. 目的

沖縄周辺海域で、網漁業、一本釣漁業の対象となる主要魚種について、資源調査を恒久的に実施し、それぞれの資源の生態、資源の変動法則を明らかにして、沿岸、近海漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

2. 調査の概要

(1) 個体生態調査

漁獲物を通じて成長と年令、成熟、産卵、系統群、回遊等について知見を得る。

- ① 体長測定調査
- ② 体長・体重調査
- ③ 胃内容物・生殖腺調査

(2) 漁獲量調査

- ① 水揚地調査

3. 調査の実施状況

(1) 実施機関 沖縄県水産試験場 漁業室

担当者 喜屋武俊彦

(2) 調査対象魚種、調査項目

- ① カツオ類

水揚地調査

- ② タカサゴ類

体長・体重測定調査、胃内容物・生殖腺調査、水揚地調査

- ③ アイゴ類

体長・体重測定調査、胃内容物・生殖腺調査、水揚地調査

(3) 鮮魚取扱い市場水揚量調査

主要漁協市場水揚量調査、主要魚種水揚量調査（市場：沖縄県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協
魚種：ハマダイ、ハマフエフキ、スジアラ、アオリイカ）

4. 調査結果

(1) カツオひき縄（糸満）

昭和59年の糸満でのひき縄の総水揚量は 39,068.6 kg、有漁日数は 171 日、のべ水揚隻数は 627 隻、1日1隻当り水揚量は 62.3kgであった。前年と比較して、総水揚量は76%で減少、有漁日数は 34日減少し、のべ水揚隻数は 582 日減少し、前年比52%で大巾に減少、1日1隻当り水揚量は 146 %で増加した。平年値と比較すると、総水揚量は 103 %で平年並、のべ水揚隻数は55%で大巾に減